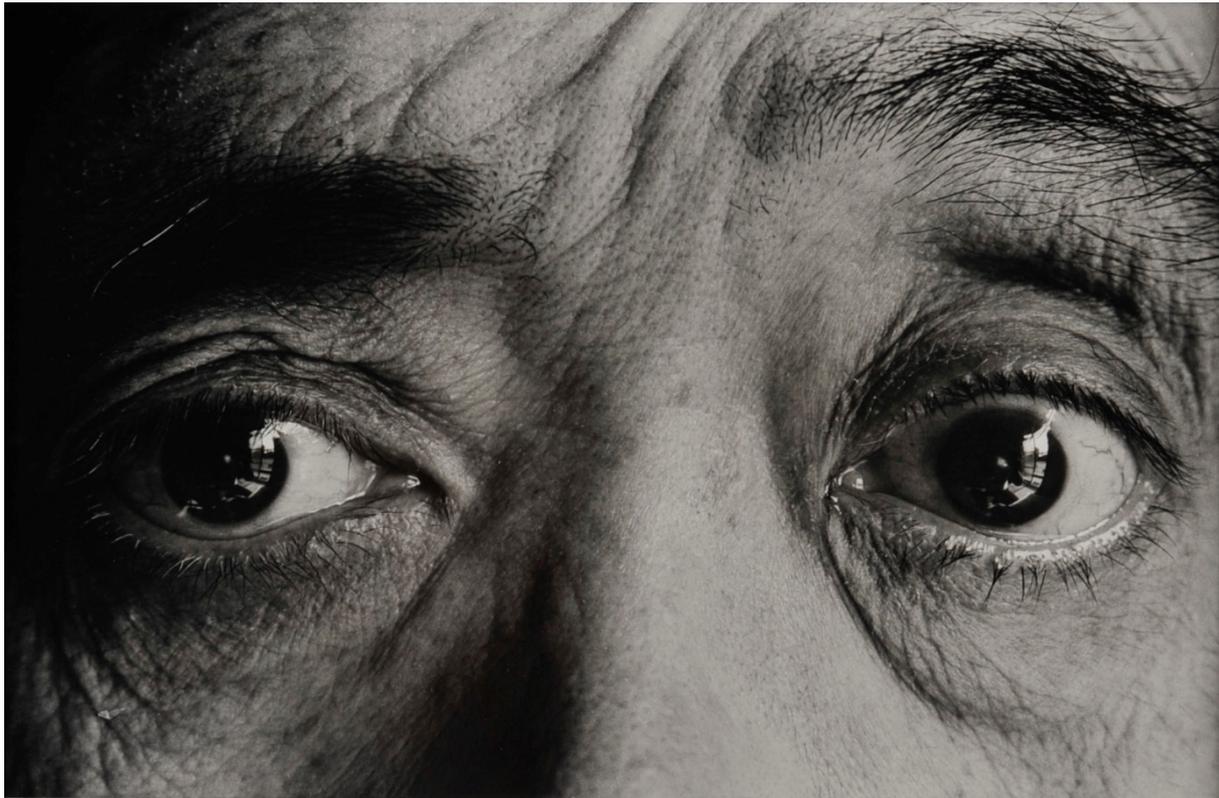


広島、長崎だけじゃない 世界のヒバクシャ



世界ヒバクシャ展のご紹介

世界ヒバクシャ展が目指すこと

戦後から今日まで、原子爆弾によって被爆した、広島、長崎の被爆者たちの体験・証言こそ、核兵器を使用させない抑止力となってきました。

被爆者の高齢化で、証言を生で伝え続けることが難しくなっています。しかし、多くの日本人は、修学旅行などで広島、長崎を訪れ、被爆体験に触れています。戦争で再び核兵器が使用されようとしている今、被爆者の思いを引き継いで、行動を起こす時ではないでしょうか。

NPO法人世界ヒバクシャ展は、原爆だけでなく、核実験、原発事故、ウラン鉱山、劣化ウラン弾などによる世界中の「ヒバクシャ」を写真で伝えてきました。6人の日本人フォトジャーナリストが撮り続けた写真には、核のない平和で安心安全な世界を願うヒバクシャの思いが滲み出ています。2002年の設立以来、国内外で開催してきた写真展は、多くの来場者の共感呼び、「自分たちもできることをしたい」といった、核の問題を自分ごととする感想がたくさん残されました。

私たちは、設立20周年を機に体制を強化し、貴重な歴史の証言として、この写真を世界中の人々に届け、教育などに活用することを目指していきます。

福島第一原発事故で、世界に放射性物質を撒き散らしてしまったという事実も踏まえれば、世界中のヒバクシャや核被害の真実を伝えることは、日本の責任と思うのです。

NPO法人世界ヒバクシャ展 設立の趣旨（2002年）

20世紀は工業技術の未曾有の発展をもたらした世紀でしたが、その一方で様々な大量無差別殺戮兵器を生み出しました。2次にわたるあの悲惨な世界大戦以降も大量殺戮は様々な形で相次いでいます。

核兵器は、こうした愚かさの象徴にほかなりません。広島・長崎の被爆者、そして次々と明らかになる世界各地の核開発・核実験・核事故の被曝者は、この愚かな現実の最大の証人です。

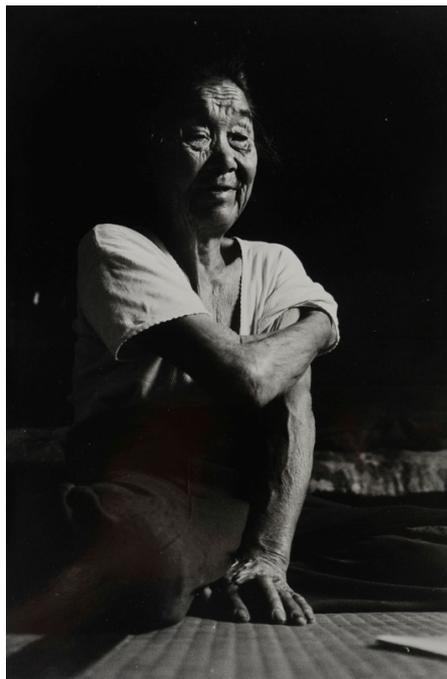
21世紀は、この忌まわしい現実をいかに克服し、豊かな人間性を回復させるかが問われている世紀です。多くの市民が核兵器を廃絶させ、核汚染を消滅させることこそ世界市民としての使命だと認識する新しい現実を創り出しましょう。

その一環として、すでに撮影され、これからも撮影される《ヒバクシャ》—核によって人間性までも破壊されながら、核の無い世界の実現を目指して強く生き続ける人々—の体験と証言を、言語を超えた写真という媒体で展示・紹介することにより、後に続く世代に残し、反響が反響を生むダイナミックな運動を展開することで、人類の希望を21世紀に見出したい。

こうした認識に基づき、私たちはこのNPOの結成を決意しました。

6人のフォトジャーナリストのプロフィールと作品

森下一徹：核廃絶を目指して力強く生きる広島、長崎の原爆被爆者の姿を50年前から撮影。1981年、ソ連邦60周年記念、国際記録芸術写真コンテスト「人間と平和」で「被爆者：富永初子」がグランプリを受賞。志を同じくする日本人写真家に呼びかけ、世界ヒバクシャ展を創始。



被爆者：藤原モトヨ

伊藤孝司：韓国・朝鮮人の被爆者は、広島で5万人、長崎で2万人に達した。戦後、十分な支援も得られず、苦難の生活を送った韓国・朝鮮人たちを、韓国、北朝鮮、日本で撮影。



韓国のヒロシマ



朴文澈
北朝鮮



8時15分で永遠に静止



被爆者：富永初子

6人のフォトジャーナリストのプロフィールと作品

桐生広人：ロンゲラップの核実験による被曝者など。核実験周辺の核被害を撮り、1993年には、ロシアが放射性廃棄物を日本海に投棄する現場を、グリーンピースの船上から世界に発信。

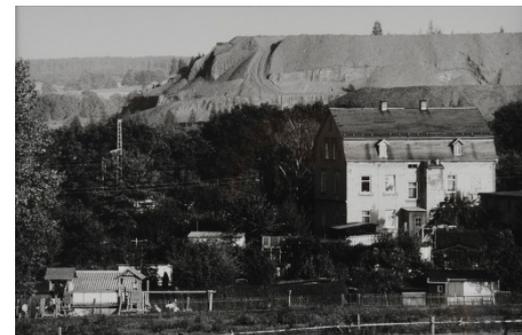


核廃棄物海洋投棄 日本海

豊崎博光：マーシャル諸島、ネバダなど核実験場の風下の人々をはじめ、ウランの採掘、原子力発電所の事故などによって核に汚染された人間や大地、動植物を撮っている。「アトミック・エイジ」が第一回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞。



故郷を捨てる マーシャル諸島



ウラン廃棄物の町 旧東ドイツ



聖地を守れ オーストラリア

6人のフォトジャーナリストのプロフィールと作品

本橋成一：チェルノブイリ原発事故の風下の人々の大地に根ざした暮らしを撮影。「ナー ज्याの村」は、1999年にドイツで行われた環境映像祭の「エコメディア」部門でグランプリを受賞。「アレクセイと泉」は、2002年ベルリン映画祭で「国際シネクラブ賞」を受賞。



こんにちは



祝宴

森住 卓：セミパラチンスク、インド鉱山、イラクの劣化ウラン弾被害などを撮影。軍事問題や環境問題に取り組む中で、最大の環境破壊の元となる核被害を目撃し、核被害に苦しむ人々を撮り続けてきた。福島第一原発事故後は、被災地の人々に寄り添い、記録を続けている。



セミパラチンスク核実験場



ウラン鉱山と放射性廃棄物投棄

インド

福島 風下の村

森住卓氏は、福島第一原発事故の直後に警戒区域に入り、その後も飯館村をはじめとする周辺地域での取材を続けました。飯館村をはじめとする“風下の村”の人々は、事後直後に雨や雪とともに大量に降り注いだ放射性物質によって、暮らしの場も仕事を奪われてしまいました。



測りきれない将来への不安



遅れた行方不明者の搜索



傷ついたプライド

キビタキのオートラジオグラフ



黒い部分が
放射性物質

国内・世界各地で大きな反響

- ◆2002年
～2006年
 - ◆2011年
 - ◆2012年
 - ◆2013年
 - ◆2014年～
 - ◆2020年
 - ◆2022年
- ・ NPO法人世界ヒバクシャ展発足。
オランダ・ハーグなどで写真展開催。
 - ※森下一徹の病気療養による約6年の中断を経て、新体制で活動再開
 - ・ 世界ヒバクシャ展緊急フォーラム（東京）
 - ・ ブラジルで開催されたリオ+20のピープルズサミット、ラオスのアジア・ヨーロッパ・ピープルズフォーラムで写真展示
 - ・ 全国各地で巡回写真展
 - ・ 世界ヒバクシャ展@京都
世界遺産の金閣寺・銀閣寺とコラボ
 - ・ ハプチョンなど韓国4都市で写真展
 - ・ 世界教会協議会（WCC）の韓国・釜山大会で写真展示
 - ・ 台北（台湾）の「零核時代」で写真展示ー若い世代を中心に、2万人近くが来場（右の写真）
 - ・ 東京、京都など各地で写真展
 - ・ 国連大学（東京・青山）で写真展
 - ・ 山梨県北杜市の新拠点で写真展

※このほかにも、国内外で、様々なグループによる写真展が数多く開催されています。



若者から感謝の言葉～来場者の感想

- 迫力ある説得力のある写真に心動かされました。「核兵器と人類は共存できない」この声を小さな力でもひろげなければ...と強く感じました。
- このヒロシマのある国に生まれた責任として、私の目の前の子どもたちにしっかりとヒロシマのこと、ナガサキのこと、そしてヒバクシャの方々のことを伝えたいと、今日また新たに決意しました。
- 原爆症で苦しみながらノーモアと叫んでくださった方に、写真の被写体になってくださった方々に感謝します。
- 写真や資料を見て胸が苦しくなりました。今も辛い思いを抱えている人がたくさんいると思います。私たちにも出来ることはないだろうか、と考えさせられました。
- ありがとうございます。人間がつくり出したものは人間が無くさなければなりません。核も戦争もない世界を目指し歩みたいと思います。

※台湾では「知らせてくれてありがとう」「写真展を持ってきてくれてありがとう」と、若者から多くの感謝の言葉をいただきました。



写真を世界に届ける方法

世界ヒバクシャ展の写真を世界に届けるために、ネットを活用するとともに、リアルな写真展を世界各国で開催していきます。写真を着実に活かしてもらうために、私たちは以下の2つの段階を考えています。

- 1 各国で写真展を開催し、信頼できるグループとつながる。
- 2 その国でより本格的な巡回展を開催する。

※世界ヒバクシャ展の写真は、写真家が被曝の危険も顧みず、世界中で撮影した貴重な写真です。ヒバクシャの姿を通して核の真実を伝えようと撮影に協力してくれた、世界のヒバクシャの思いに応えるためにも、私たちは、写真を大切に扱ってくださる方たちと長期的な信頼関係を築いていきたいと考えています。



写真パネルを貸し出し

世界ヒバクシャ展の写真は、貸し出しをしています。写真は120点ありますが、少ない点数での貸し出しもしています。

世界ヒバクシャ展は、国内だけでなく、アジアをはじめとする世界各国で開催していきます。そして、海外で活動に取り組む人々に、写真セットを順次届けていきます。この写真展を全国津々浦々で開催することが、そのための基盤となります。

パネルについて

写真の枚数	120点	パネルのサイズ
全体趣旨	1点	A2（横420mm×縦594mm）
再出発に当たって	1点	福島の写真はA3ノビ
各写真家のメッセージ	6点	（330 mm×480mm、A4のキャプション付き）
計	128点	

※貸出料など詳細は、世界ヒバクシャ展ホームページの「写真貸し出しのご案内2022年版」をご覧ください。



世界遺産と人類の記憶遺産のコラボ

放射能に汚染されてしまえば、世界遺産も台無しです。そこで、より多くの人々にヒバクシャの存在を知ってもらい、核について考えてもらうために、世界遺産と、人類の“記憶遺産”と言える世界ヒバクシャ展とのコラボイベントの世界各地での開催を目指します。

コラボの方法

- ▽寺院などの**世界文化遺産での写真展**開催
- ▽世界文化遺産や世界自然遺産と、ヒバクシャとの**コラボ写真**をポスターなどでのPRに活用

※2013年には、京都の金閣寺、銀閣寺とのコラボを実施しました。



世界ヒバクシャ展とSDGs

ヒバクシャが願う平和で持続可能な世界の実現に寄与するとともに、若い人たちが世界ヒバクシャ展の写真に接する機会を増やすことを目指して、YES PEACE!プロジェクト、SDGsハッピーアースパレードなど様々な活動にも取り組んできました。



20周年となる2022年には、八ヶ岳山麓の山梨県北杜市で古民家を譲り受け、新拠点として、新たな活動を始めました。この場所を活用して、新たなつながりづくりも進めていきます。

ヒバクシャの思いを届けるためにご協力を

国内外での写真展開催や写真パネルの制作などNPO法人世界ヒバクシャ展の活動には、まとまった資金をはじめとする様々なご支援が必要です。

各地域での世界ヒバクシャ展の開催や教育への活用、ご寄付・ご協賛、人的なご協力などによって、活動を支えていただきますようお願いいたします。

NPO法人世界ヒバクシャ展

〒152-0031 東京都目黒区中根1-6-7 都立大マンション603

TEL 080-3558-3369 メール hibakushaten@gmail.com

URL <http://www.no-more-hibakusha.net/>

山梨新拠点

〒408-0015 山梨県北杜市高根町下黒澤3160